

工事事務(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事務が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事務が再び発生することのないように工事事務概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

【工事事務(速報)発生状況】

(H26.9.30現在)

	9月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成26年度(今年度)	8件	28件	1人	14人
平成25年度(昨年度)	7件	77件	11人	32人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事務発生件数(速報)を示す。

注2) 「9月発生件数」は、9/1～9/30の間に起きた件数。(月毎分)

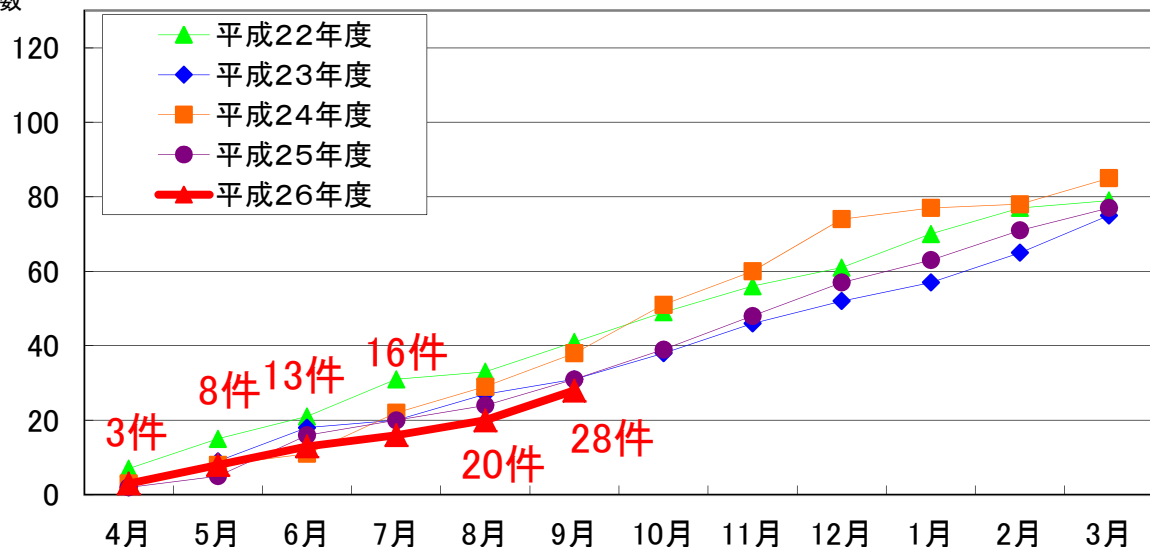
注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

注5) 平成26年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

●工事事務件数

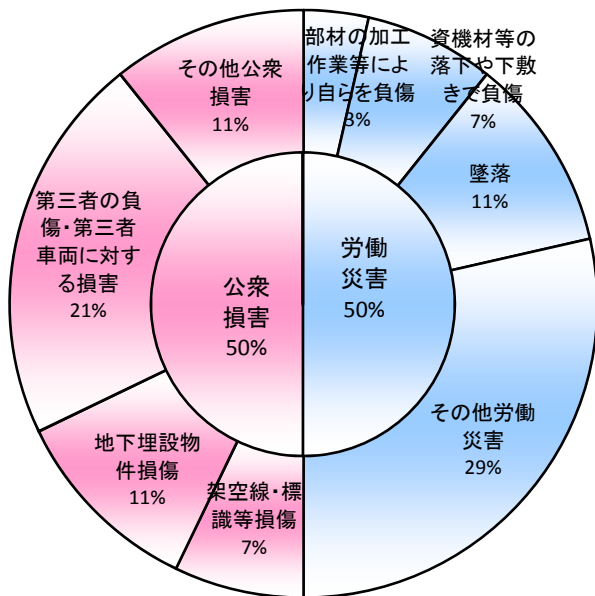
件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成22年度 累計 (月毎)	7件 (7件)	15件 (8件)	21件 (6件)	31件 (10件)	33件 (2件)	41件 (8件)	49件 (8件)	56件 (7件)	61件 (5件)	70件 (9件)	77件 (7件)	79件 (2件)
平成23年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	9件 (7件)	18件 (9件)	20件 (2件)	27件 (7件)	31件 (4件)	38件 (7件)	46件 (8件)	52件 (6件)	57件 (5件)	65件 (8件)	74件 (9件)
平成24年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	11件 (3件)	22件 (11件)	29件 (7件)	38件 (9件)	51件 (13件)	60件 (9件)	74件 (14件)	77件 (3件)	78件 (1件)	85件 (7件)
平成25年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	16件 (11件)	20件 (4件)	24件 (4件)	31件 (7件)	39件 (8件)	48件 (9件)	57件 (9件)	63件 (6件)	71件 (8件)	77件 (6件)
平成26年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	13件 (5件)	16件 (3件)	20件 (4件)	28件 (8件)						

※なお、平成21年度工事事務より、国の管理物損傷事故件数を措置の対象としている。

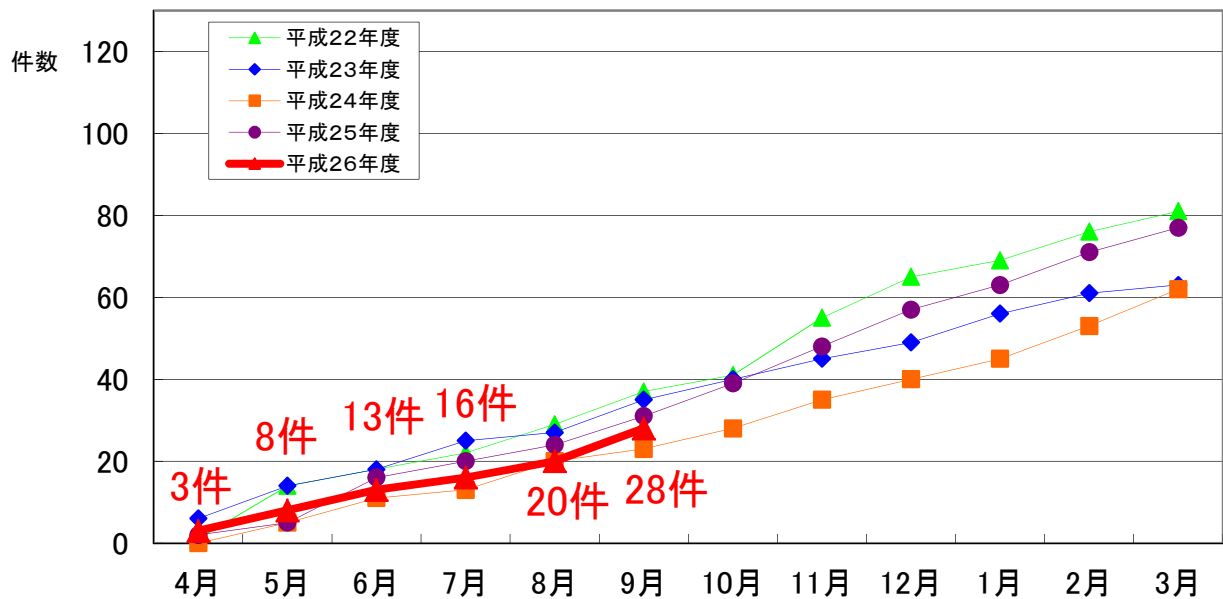
●平成26年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H24	H25	H26	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	7	6	0	13
	部材の加工作業等により自らを負傷	0	4	1	5
	資機材等の落下や下敷きで負傷	9	6	2	17
	墜落	5	6	3	14
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	0	1	0	1
	その他労働災害	6	6	8	20
小計		27	29	14	70
公衆損害	架空線・標識等損傷	10	5	2	17
	地下埋設物件損傷	7	12	3	22
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	19	17	6	42
	その他公衆損害	19	10	3	32
小計		55	44	14	113
その他事故		3	4	0	7
計		85	77	28	190

…H26年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)

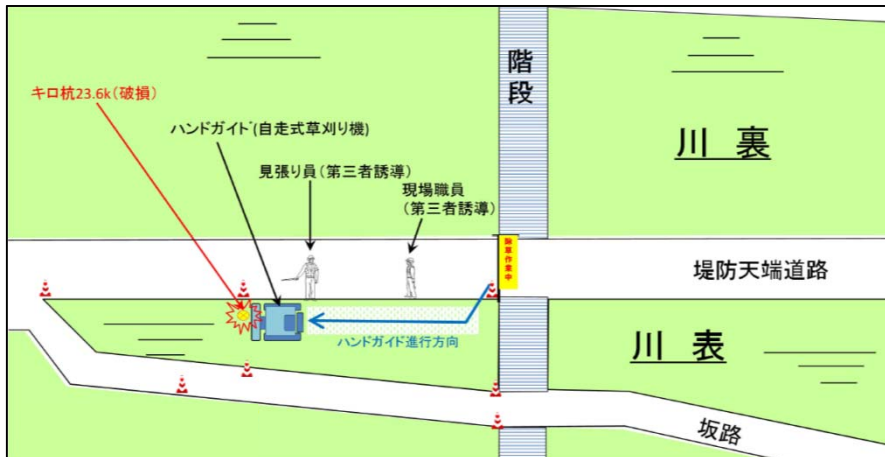


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成22年度 累計(月毎)	6件(6件)	14件(8件)	18件(4件)	25件(7件)	27件(2件)	35件(8件)	40件(5件)	45件(5件)	49件(4件)	56件(7件)	61件(5件)	63件(2件)
平成23年度 累計(月毎)	0件(0件)	5件(5件)	11件(6件)	13件(2件)	20件(7件)	23件(3件)	28件(5件)	35件(7件)	40件(5件)	45件(5件)	53件(8件)	62件(9件)
平成24年度 累計(月毎)	2件(2件)	6件(4件)	8件(2件)	18件(10件)	23件(5件)	31件(8件)	42件(11件)	50件(8件)	63件(13件)	66件(3件)	67件(1件)	74件(7件)
平成25年度 累計(月毎)	2件(2件)	5件(3件)	16件(11件)	20件(4件)	24件(4件)	31件(7件)	39件(8件)	48件(9件)	57件(9件)	63件(6件)	71件(8件)	77件(6件)
平成26年度 累計(月毎)	3件(3件)	8件(5件)	13件(5件)	16件(3件)	20件(4件)	28件(8件)						

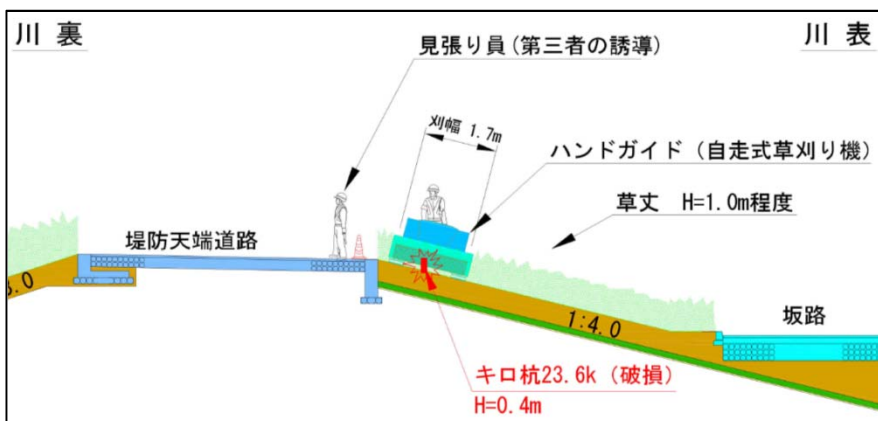
■問合せ先:企画部 技術調査課 遠藤・桑田 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 26 年 9 月 5 日 (金) 14 時 10 分			
工事情報	河川系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	キロ杭損傷
事故概要	堤防上において、雑草の繁茂が激しかったため、抜根する前にハンドガイドで高刈りを行ったところ、既存のキロ杭に気づかず、損傷させたもの。			
	公衆損害－その他公衆損害			

事故発生状況



・堤防上において、雑草の繁茂が激しかったため、抜根する前にハンドガイドで高刈りを行ったところ、既存のキロ杭に気づかず、損傷させた。



【事故発生原因】

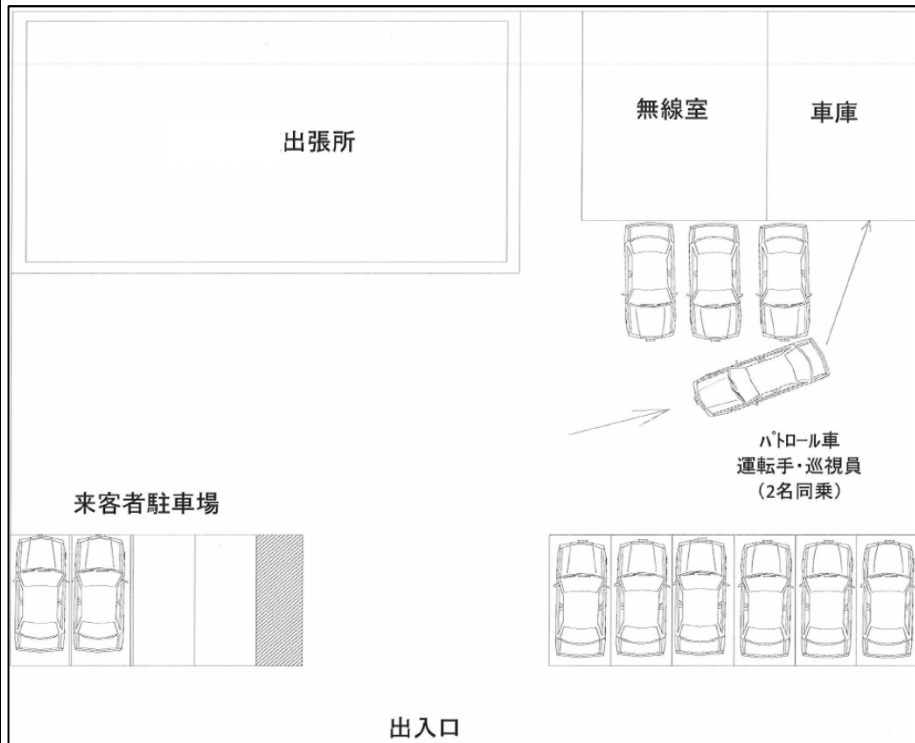
- ・既存物に対する注意不足など

【事故防止のポイント】

- ・作業前に現地を確認し、必要に応じて、既存物周りの先行刈り、目印表示などを行うなど

発生日時	平成 26 年 9 月 12 日 (金) 11 時 30 分			
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	一般車両左前バンパー損傷
事故概要	維持工事のパトロール車が巡回終了後、出張所において、入庫するためにバックをした際、付近に駐車してあった一般車両と接触したもの。			
	公衆損害—第三者の負傷・第三者車両に対する損害			

事故発生状況



・維持工事のパトロール車が、午前中の巡回を終えて、出張所車庫に入庫しようとした際、車庫側に駐車していた第三者車両に誤って接触し、パトロール車の後方と第三者車両の前方(フロントバンパー)を損傷させた。



【事故発生原因】

- ・運転手の後方確認不足など

【事故防止のポイント】

- ・車両安全運転教育の徹底
- ・周辺確認の徹底など

発生日時	平成 26 年 9 月 14 日 (日) 10 時 30 分			
工事情報	道路系事務所 造園工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	41	造園工	
事故概要	第8胸椎圧迫骨折、仙骨骨折、右恥坐骨骨折、右第11肋骨骨折(全治2～3ヶ月)			
	高木剪定作業中、作業員が片足を枝に寄せ、体重を掛けた際、枝が折れ、作業員が落下し負傷したもの。			
労働災害－墜落				

事故発生状況



片足を梯子に、もう一方の足を大枝に掛け体を伸ばして剪定を開始

安全帯を上部の大枝に掛けずに剪定を始め、手を掛けていた枝が突然折れたために転落してしまった。



折れた枝 L=80cm, φ=10cm

・2本の街路樹を2名の樹上作業員が1本に1名ずつ登って剪定を行っていた(このときは安全帯を適正に使用していた)が、前方の高木の剪定が早く終わると判断した被災者は、後方の高木の剪定を手伝おうと木に登った。

・被災者は安全帯を掛けずに剪定を行っていたところ、手を掛けていた枝が突然折れ、転落した。

【事故発生原因】

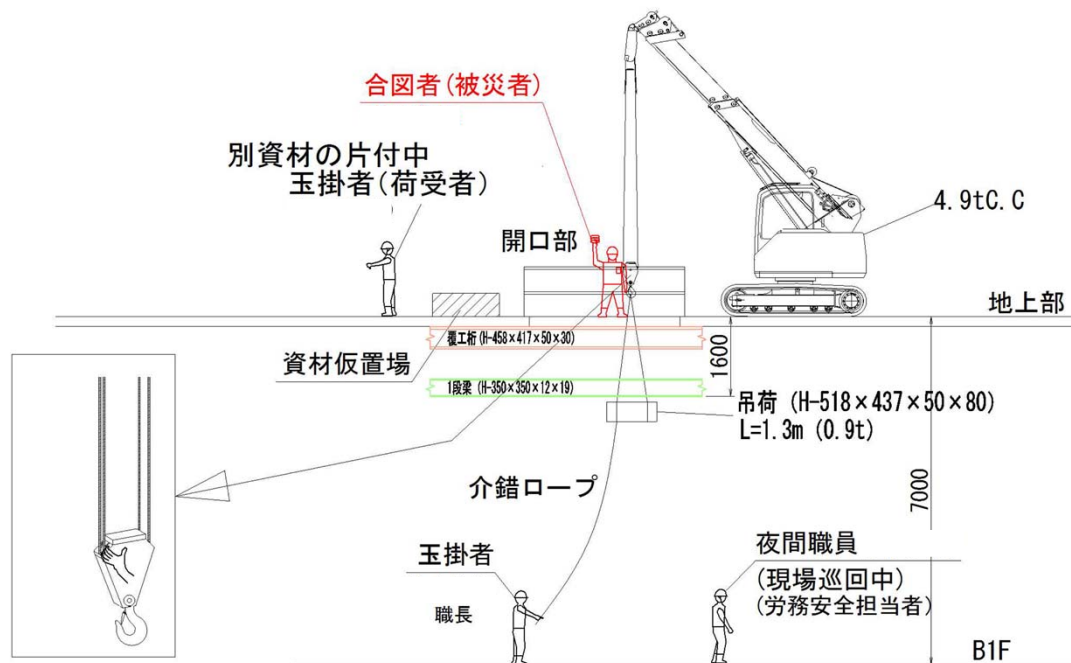
・安全帯未使用
など

【事故防止のポイント】

・安全帯を適正に使用するよう、周知徹底する
など

発生日時	平成 26 年 9 月 19 日 (金) 1 時 25 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	65	鍛冶工	左中指環指挫滅切断
事故概要	地下歩道構築内の資材片付け中、切断鋼材を引き揚げている際、吊りワイヤーが覆工桁に接触しそうになったため、合図者がクレーン滑車部分を押したところ、クレーンワイヤーと滑車部分に指が巻き込まれ負傷したもの。 労働災害—その他労働災害			

事故発生状況



・当該作業は、地上開口部から覆工下に集積された切断鋼材(H形鋼)をミニクレーン(4.9t)で地上に搬出するものであった。地上合図者(被災者)はクレーンのフックを降下させ、鋼材の玉掛けが完了した後、クレーン運転手に引揚げ合図を送った。

・鋼材の揚重途中で吊荷が回転し始め、クレーンのフックが目の前の高さになった時、吊りワイヤーが開口際の覆工桁に近づき接触しそうになったため、地上合図者は、咄嗟にクレーン滑車部分(鉄板被覆箇所)に左手(皮手着用)を押し当てながら、引揚げ合図をしたが、その時、鉄板被覆外に左手指が掛り、クレーンワイヤーと滑車部分に巻き込まれて被災した。

【事故発生原因】

・クレーン引き揚げ作業時の安全管理の徹底不足
など

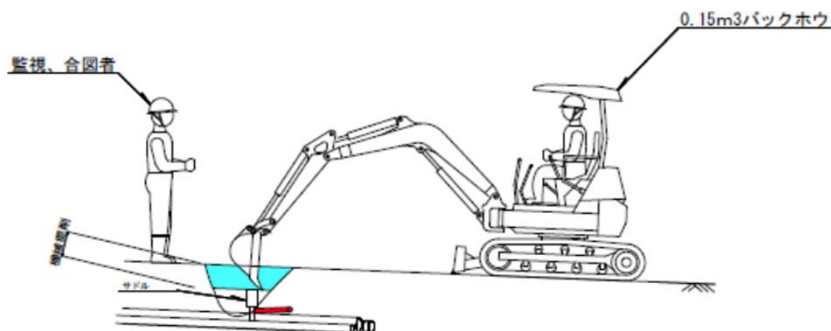
【事故防止のポイント】

・吊り荷が不安定になった際は、作業を一旦停止させるなど、安全管理の周知徹底をする
など

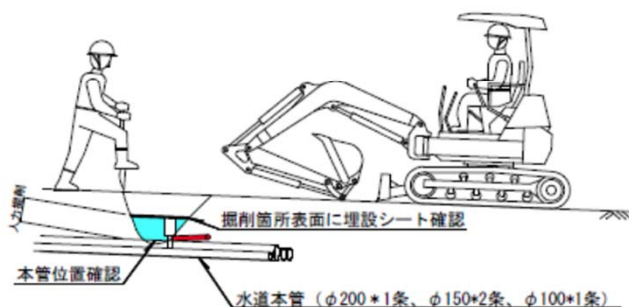
発生日時	平成 26 年 9 月 19 日 (金) 13 時 45 分			
工事情報	河川系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	水道管破損
事故概要	道路土工に先立ち、水道管(排水管4本)を確認するため試掘をしていたところ、枝管(給水管1本)の存在に気づかず、バックホウにて引っ掛け、破損させたもの。破損により1軒断水、復旧作業のためにもう一軒断水。 公衆損害—地下埋設物件損傷			

事故発生状況

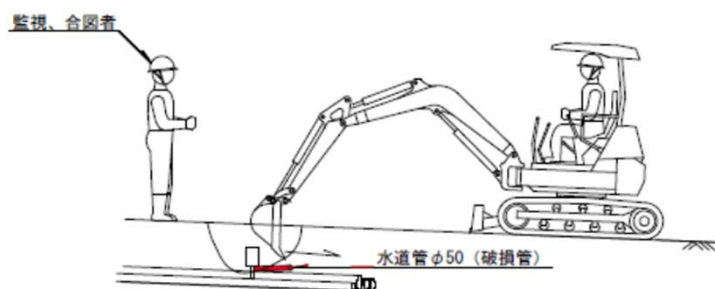
①表層約30cm路盤を0.15m3バックホウにて掘削



②人力にて掘削、掘削直後に埋設シート確認
更に人力にて掘削して埋設本管を確認



③本管の上部をバックホウにて鋤取り、
本管上部を横断していたφ50水道管を破損



・道路土工の施工に先立ち、既設水道管の試掘作業を実施していた。

・人力と機械の併用にて掘削を実施していた。

・水道管の位置は、事前に発注者からの貸与図面で把握していたが、水道本管の位置を確認後、その位置よりも浅いところには管はないと思い込み、バックホウで引っ掛けてしまった。

・破損により1軒が断水、復旧作業に伴い、もう1軒が断水した。

【事故発生原因】

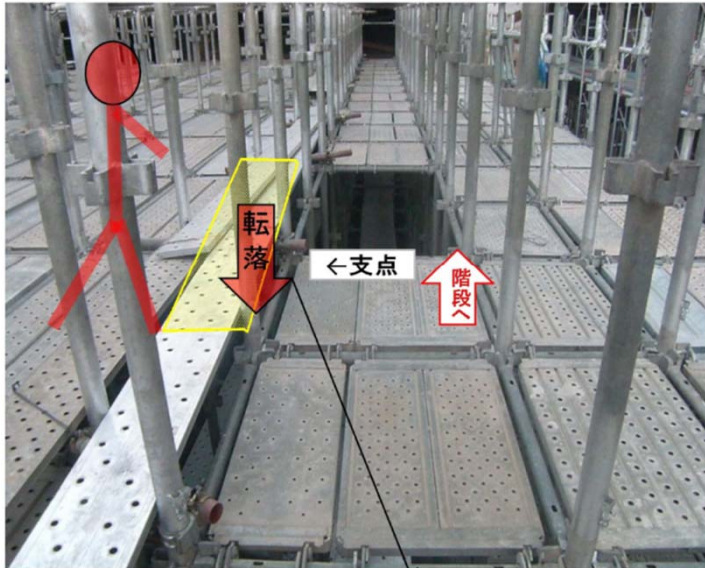
- ・地下埋設物に関する注意不足など

【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物付近での作業は十分に注意して、慎重に実施するよう作業員に周知徹底するなど

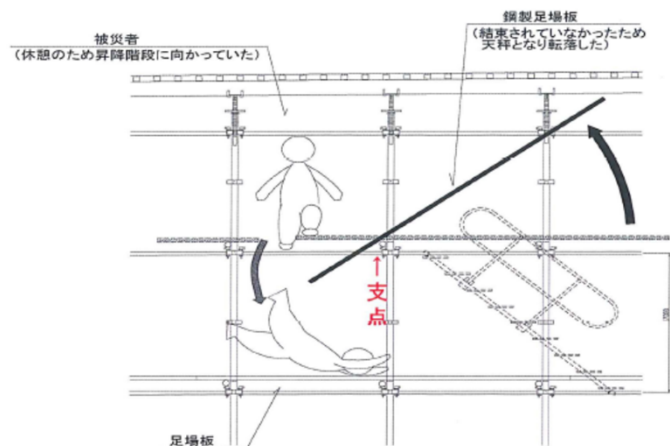
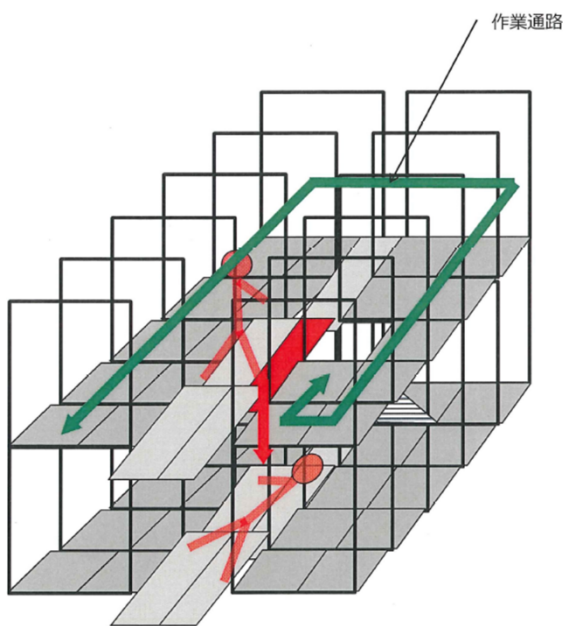
発生日時	平成 26 年 9 月 27 日 (土) 10 時 0 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	46	とび工	
事故概要	コンクリート構造物施工に伴う足場設置作業中、作業員が、他の作業員が設置中の未結束の足場板に乗り、約1.8m下の足場板に落下し、負傷したものの。			
	労働災害－墜落			

事故発生状況



組立中の足場板が天秤になり、転落した。

・支保工内の4段目作業床において、三角形の開口部を足場板で塞ぐ作業をしていた作業員が休憩をとるために、階段へ向かう際、他の作業員が設置途中である未固定の足場板に乗ってしまい、1.8m下の3段目作業床に転落し負傷した。



【事故発生原因】

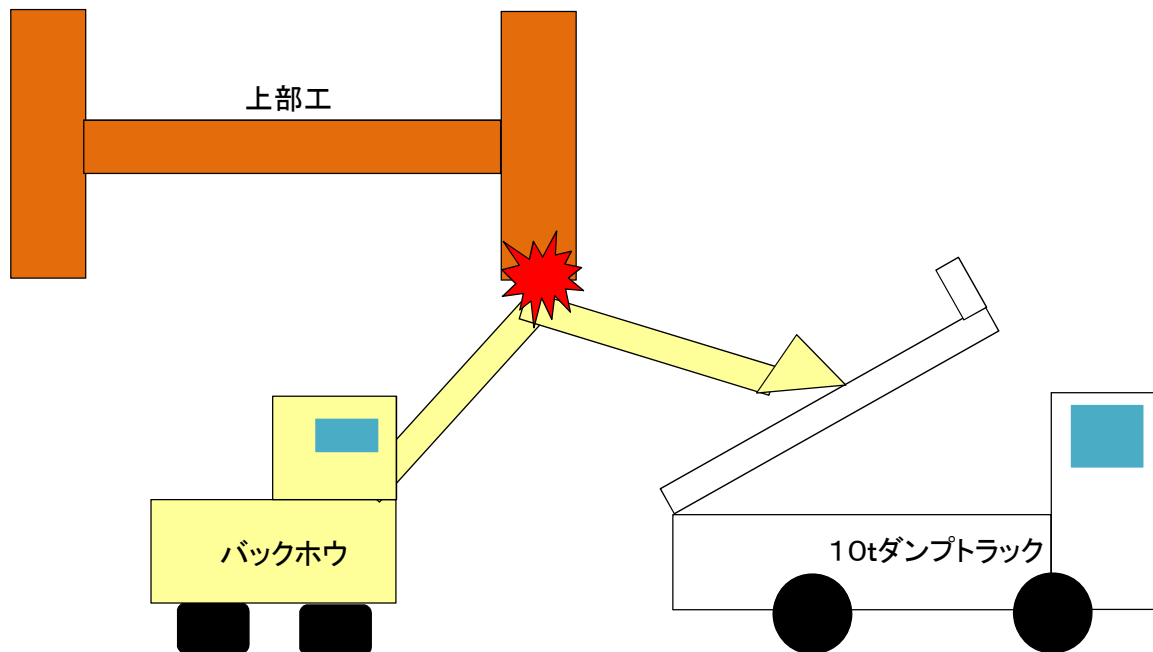
・設置した足場板が、未固定及び未表示という状態で現場を離れたなど

【事故防止のポイント】

・未固定の足場板がある場合は、他作業員もわかるように看板などで表示しておくなど

発生日時	平成 26 年 9 月 29 日 (月) 17 時 0 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	上部工桁塗装損傷
事故概要	橋梁の桁下で掘削残土の受入作業を行っていた際、バックホウのアームが桁に接触し、塗装を損傷させたもの。			
	公衆損害ー架空線・標識等損傷			

事故発生状況



- ・橋梁の桁下で掘削残土の受入作業を実施していた。
- ・運搬車両(10tダンプトラック)の泥落とし作業を実施中に、バックホウのアームが桁の下部に接触し、損傷させた。
- ・桁及び添接板には影響は無く、塗装の剥がれのみであった。

【事故発生原因】

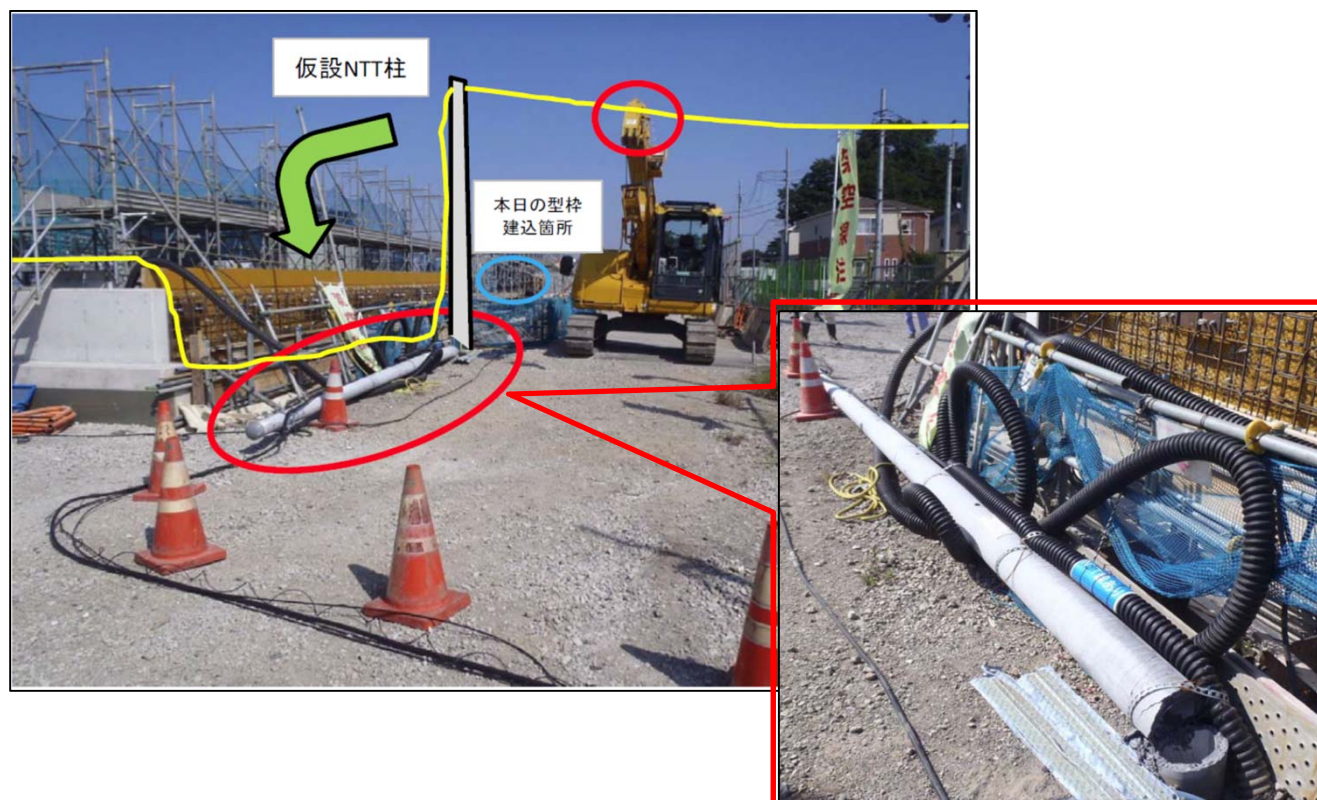
- ・上空支障物に対する注意不足など

【事故防止のポイント】

- ・上空支障物付近で作業を実施する際は、十分注意するよう作業員に周知徹底するなど

発生日時	平成 26 年 9 月 30 日 (火) 11 時 50 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	NTT柱を損傷
事故概要	クローラークレーンが型枠材を取りに行こうと移動していた際、現場内にあったNTT架空線に気づかず、クレーンブーム先端で架空線を押してしまい、柱を倒してしまったもの。			
	公衆損害－架空線・標識等損傷			

事故発生状況



・4tユニックで運ぶ予定だった型枠材が、コンクリートポンプ車の早めの入場により取りに行くことができなくなり、相番の4.9tクローラークレーンが別の位置から取りに行こうとして、移動している際、NTTの架空線に気づかず、クレーンのブーム先端で架空線を押してしまい、仮設のNTT柱を倒してしまった。

・NTT柱は折れたものの、架空線は切れておらず、通信に影響はなかった。

【事故発生原因】

・架空線に対する注意不足
など

【事故防止のポイント】

・架空線の存在、位置等を作業員に
周知徹底する
など